

朝日ヶ丘町178番1 病院計画

□敷地周辺の環境

- ・ 山麓線（幅員 11m）に面する計画敷地は、敷地の西面、南面を幅員約 6mの生活道路に接道している。生活道路沿道は、第 1 種低層住居専用地域が指定され、良好な戸建住宅地が形成されており、石積みや塀と庭の緑が織りなす敷き際が続く落ち着いた住宅地である。
- ・ 敷地周辺は山手の緑豊かな住宅市街地であり、風致地区が指定され緑の保全が図られている。敷地南東には山麓公園があり、また、敷地内にも豊かな緑地が残されており、公園や緑地にある高木が地区の緑景観を特徴づけている。
- ・ 山手の斜面地に位置することから、敷地の南北で約 15.65mの高低差があり、道路は北から南に向かって約 16.5m下がっていく。このため、敷地周辺の道と建築物の間には高低差の影響を受けて斜面地や擁壁などが現れる。また、敷地の東、西側の道路においては、見上げ・見下ろしによって通りの景観の見え方が変わる。

□周辺環境および地域コンテクストにもとづき基本的に注意すべきこと

- ・ 緑豊かな山手の戸建住宅地であることによって特徴づけられている景観の持続・向上のために、
 - * 既存緑地や樹木を保全するよう建築物の配置、敷地内の樹種の選択、アプローチや敷地内の空地のデザインを総合的に計画すること
 - * 風景として周辺の戸建住宅のスケールから突出しないような空間構成およびデザインとすること

は計画を検討するうえでの基本である。

- ・ 西側および南側の道路の対面には戸建住宅が建ち並んでおり、これら向かい側の家並みや敷き際の構成と計画地の敷き際とが一体となって生活景観が形成されることから、この生活景観の特性を維持向上させるような敷地際のデザインとする。そのひとつとして、道路からのアプローチや車路は無機質にならないよう仕上げや緑化の工夫が必要である。また、通り際の構成要素（構造物など）のスケールに配慮する必要がある。
- ・ 山手に立地することから、現状地盤に高低差があるために必要となる構造物（階段、スロープ、車路など）や大規模な擁壁、高低差を活用した地下構造物などが計画されることになる。そのとき構造物ができるだけ通りから見えないよう、配置やアプローチを検討し、緑の地形をつくるようなランドスケープデザインを工夫する
- ・ 高低差を活かした複数の建築物等の壁面の重なりによって建物壁面の見えがかりが大きくならないようにすることや敷き際の植栽と一体的にデザインすることにより生活道路への圧迫感のないようにすることに配慮する。

※ 当該計画は公共主体による広く市民に利用される基幹的な施設であることから、景観形成に主導的な役割を果たすことが特に強く求められるものである。具体的には下記についての配慮が必要と考える。

- ・ アプローチや敷地際のつくり方と一体的あるいは調和するように敷地内に設置されているバス停（山麓線および南道路）の改修も含め、総合的に敷地際のデザインを計画する
- ・ 既存緑地の保全やオープンスペースの使い方と合わせて山麓公園と一体となった計画とする

※ また、本計画の特性として、建替と改修が混在する計画であることから、改修部と建て替え部の計画（色彩・ボリューム・配置など）が全体としてどのような景観を形成しようとしているのか、それぞれの計画について景観の観点から説明される必要がある。